（３）アンケート調査の集計結果（クロス集計結果）（速報）

※アンケート結果の一部に不明な点があるため、今後の精査の過程で数値が若干変動する可能性あり

ここでは、アンケート調査結果を基に、以下の観点によりクロス集計を行った。

観点１．学校規模（学級数）による施設の整備状況の把握

・学校規模（１学年１学級のような小規模な学校（以下、本報告書では「小規模校」という。）や、１学年３学級を超えるような大規模な学校（以下、本報告書では「大規模校」という。））により施設の整備状況にどのような変化があるのかを把握するため、学校規模と校舎面積、校舎の整備手法（新築、増築＋改修　等）の関係を調べた（クロス集計①）。

・また、室単位で見た場合、学校規模により特別教室等の整備数に違いがあるのかを調べた（クロス集計②）。

観点２．設計上制約の多い整備手法（増築＋改修 等）での施設整備の状況の把握

・新築に比べ設計上の制約が多いと考えられる増築＋改修、改修のみの整備手法における整備の状況を把握するため、整備手法別の室の共有化状況を調べた（クロス集計③）。

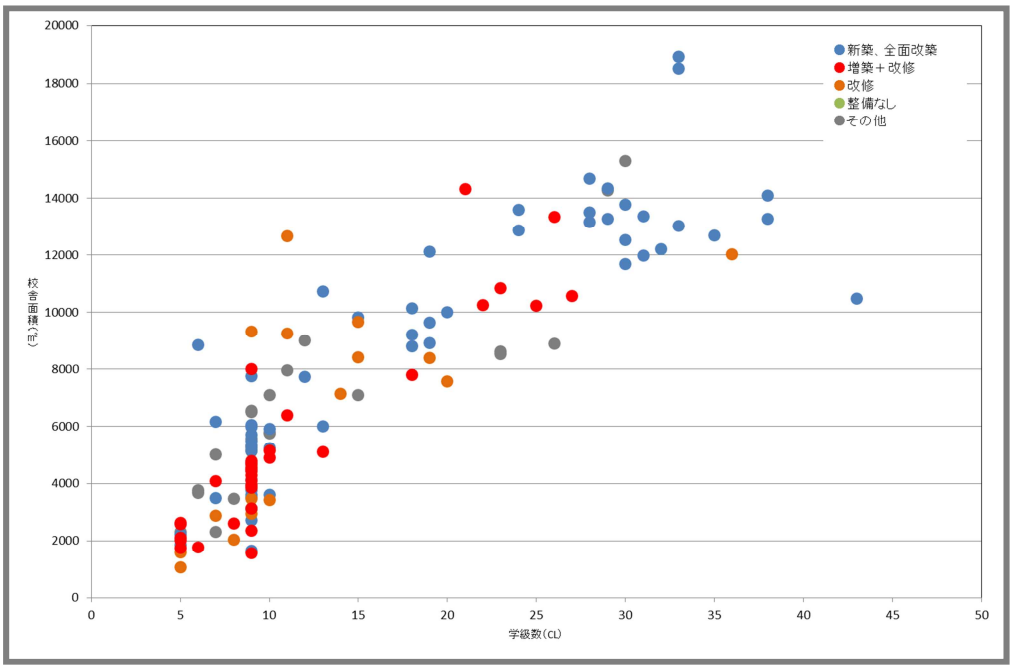
・また、単純集計では、施設一体型校舎にしたことにより、新たに異学年交流スペース等の空間を追加した学校が約4割あるが、整備手法別に見るとどのような状況であるかを調べた（クロス集計④）。

・加えて、増築＋改修、改修のみの整備手法における学年区分（ステージ）と校舎ゾーニングの整合性を調べた（クロス集計⑤）。

集計結果を以下に示す。

クロス集計①：　学校規模（学級数）－ 校舎面積　－　整備手法：　n=１３２

学校規模（学級数）と校舎面積、校舎の整備手法（新築、増築＋改修　等）の関係について、集計を行った。小規模校では、増築＋改修、改修のみの整備が目立つ。一方、大規模校では、新築、全面改築による整備が多く見られる。校舎面積は、概ね、学級数の増加に従い、大きくなっている。



クロス集計②：　学校規模（学級数）－ 特別教室等の数：　【集計途中】

小規模校、大規模校における特別教室等の整備数を集計した。

小規模校では、音楽や理科、家庭科等の特別教室を小学校と中学校とであわせて１室整備している学校が多い。また、図工室、美術室については、兼用で１室整備している学校が多い。Ｃ小中学校については、元々同一敷地内に小学校と中学校を併設している学校であり、特別教室は、小学校、中学校それぞれ既存校舎の特別教室を使用している。ただし、小中一貫教育開始に向け、小学校の図工室を職員室に改修整備したため、図工の授業は美術室を使用している。

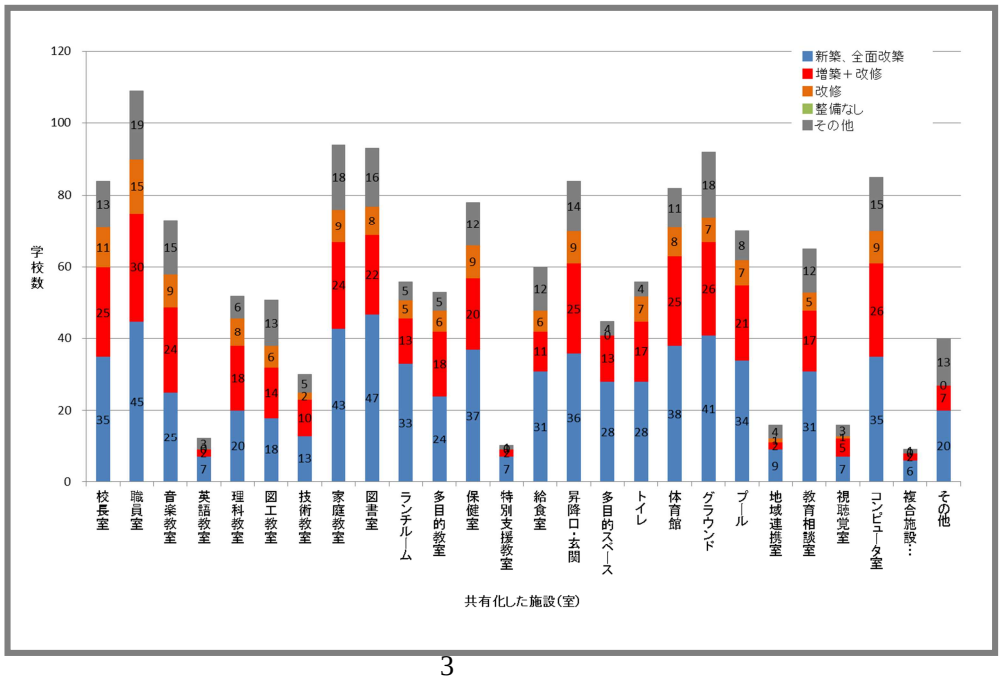
Ｂ小中学校については、図工や美術の授業は、普通教室や技術教室を使用している。

Ｇ小中学校については、体育館は近隣の社会体育施設を使用している（学校が優先使用）。

	学校名	通常学級数		整備手法		特別教室等の整備数						
		小学校	中学校	新築改築	増築改修	音楽教室	理科教室	図工教室	美術教室	家庭教室	保健室	体育館
小規模校	A小中学校	6	3		○	1	2	1	1	1	1	2
	B小中学校	3	2		○	1	1	0	0	1	1	1
	C小中学校	6	3		○	1	2	1		2	2	2
	D小中学校	6	3		○	1	1	1		1	1	1
	E小中学校	3	3		○	1	1	1		1	1	1
	F小中学校	3	2		○	1	1	1		1	1	1
	G小中学校	3	3	○		1	1	1		1	1	0
	H小中学校	6	3	○		1	1	1		1	1	1
	I小中学校	3	3	○		1	1	1		1	1	1
	J小中学校	4	3	○		1	1	1		1	1	1
	K小中学校	5	3	○		1	2	1		2	1	1
大規模校	L小中学校	28	7	○		2	3	1	1	2	1	2
	M小中学校	28	10	○		1	3	1	1	2	2	2
	N小中学校	29	9	○		2	3	1	1	2	1	2
	O小中学校	19	10	○		2	3	1	1	2	2	2
	P小中学校	18	10	○		2	3	1	1	2	1	2
	Q小中学校	20	11	○		2	4	1	1	2	1	2
	R小中学校	25	7	○		3	3	1	1	2	1	2

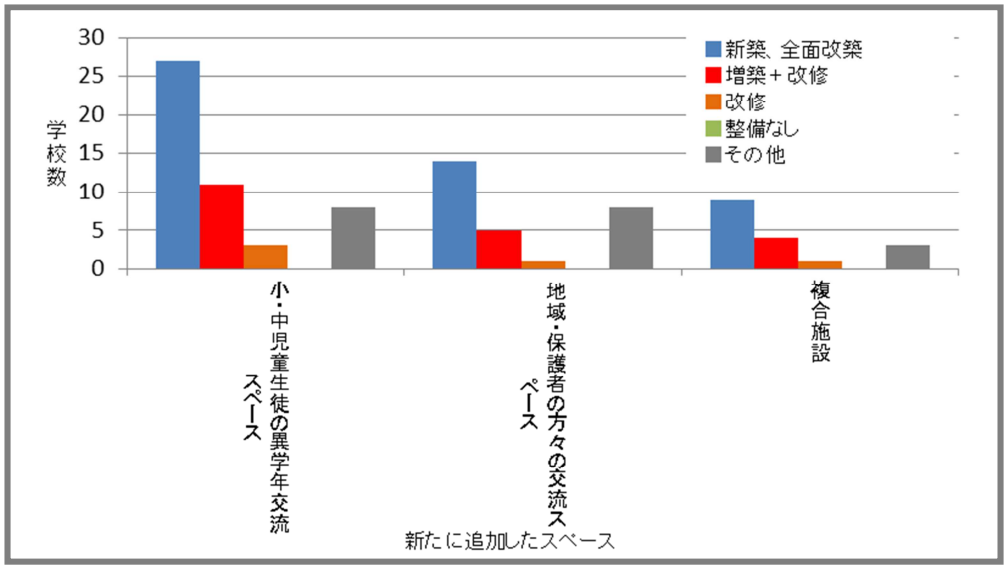
クロス集計③：　整備手法　－ 共有化した施設（室）：　n=１３２

整備手法別に施設（室）の共有化状況を比較した。新築に比べ設計上の制約が多いと考えられる増築＋改修、改修のみの整備においても、部屋の共有化が行われている。



クロス集計④：　整備手法　－ 新たに追加したスペース：　n=１３２

施設一体型校舎としたことにより新たに追加したスペースについて、整備手法別の傾向を見た。児童生徒の異学年交流スペースを新たに整備した学校は、新築が多い。



クロス集計⑤：　学年区分　－ 校舎ゾーニングの整合性：　n=５０

設計上の制約が多いと考えられる増築＋改修、改修のみの整備手法で施設一体型校舎を整備している学校50校について、学年区分（４＋３＋２、６＋３　等）と校舎ゾーニング（各学年の普通教室等の配置）が整合状況を調べた。

その結果、34校（68%）は学年区分のまとまりで教室が配置されていた（整合していた）。しかし、16校（32%）の学校では、物理的な制約等から整合していなかった。